

このところ「東アジア共同体」に関する議論が盛んである。しかし、東アジアについての定義はまだ固まっていない。

私が学長をつとめる国際教養大学は全ての授業を英語で行っているが、グローバル・スタディズ課程には北米分野とともに東アジア分野があり、

「東アジア研究概論」という科目もあつて、私自身が受け持っている。

私たちは東アジアの領域を中華世界(台湾・香港・マカオおよび東南アジアの華人社会を含む)、韓国・北朝鮮、極東、ロシアと定めていて、それぞれの言語も習得できるとなっている。

一方、概ね肯定的意見が多いマスメディアや学界などの「東アジア共同体」の議論を眺めると、東アジアの現実から大きく乖離した楽観論や待望論、も

しくは日本の過去を断絶する裏返しとしてのアジア礼賛の見方が主調になっていて、承服できないものが多い。

東アジアの現実を地政学的にとらえれば、中国という大陸国家の「大陸性

リレー連載

いま「アジア」を観る 64

東アジアとは何か

中嶋嶺雄

(Continentality)」と韓国という半島国家の「半島性(Peninsularity)」、そして日本という海洋国家の「島嶼性(Isularity)」とでもいうことができようが、そこには容易には一致し得ない文

化的・文明的違和が存在する。

東アジアを日・韓・中三国に限ってみても、航空路ではわずかに二、三時間でカヴァーできてしまう程の近さであり、また欧米人から見れば、これら三国の国民を外見から見分けるのは困難なほど似通っている。

そのような至近距離にあるにもかかわらず、これら三方国の言語は、それぞれに全く異なつた外国語である。これに国民性を加味し、さらに食文化を比べれば、同じく「箸の文化」の枠内にありながらも、そこには大きな違いがあることが歴然とする。

今回の「中国毒入りギョーザ」事件は、東アジアにおいて、食文化の歴史的違いを無視して外食に、それも中国食に頼ることがいかに危険であるかを教えたのであつた。(なかじま・みねお/国際教養大学学長)

四非

月刊

機

2008

4

No. 194

発行所

株式会社 藤原書店

C

〒100-0004 東京都新宿区早稲田鶴巻町五二三
電話 〇三・五二七二・〇三〇一（代）
FAX 〇三・五二七二・〇四五〇
◎本冊子表示の価格は消費税込の価格です。編集兼発行人
藤原良雄
頒価 100 円

近代日本の近代化に多大な功績をあげた、榎本武揚。没後百年記念出版！

近代日本の万能人、榎本武揚



將臣として箱館戦争を率い、出陣後は世界に通用する稀有な官僚として、外交・内政両面で日本の近代化に尽くした榎本武揚。しかし、近代日本が生んだこの万能人と呼ぶべき人物は、その際立った功績にもかかわらず、いまだ正当に評価されているとは言えない。

榎本を貫いていた、西欧列強に触発された強烈な「国益意識」、そして北進の時代にあつて「南進」を発想させるその地球規模のリアリズムとプラグマティズムは、没後百年経つた今、新たな日本の生き方を示唆している。 編集部

● 四月号 目次 ●

旧幕臣の榎本武揚、没百年記念出版！

近代日本の万能人、榎本武揚

1

『環』誌に本格的書評欄の登場、第一弾！

批評と学問

高橋英夫・十粕谷一希

6

『環』33号特集「世界史のなかの68年」

六八年の赤い糸

加藤登紀子

揺れる電気傘と「三億円」

窪島誠一郎

目覚め、そして屈折

宮迫千鶴

10

社会科学と詩の共鳴『対話 言葉と科学と音楽と』

解説という名の広告

天野祐吉

二つの軌跡

竹内敏晴

14

NHKとともに七〇年

長澤泰治

リレー連載・今、なぜ後藤新平が

及川正昭

後藤新平の心を次世代に

18

リレー連載・いま「アジア」を観る

中嶋嶺雄

21

〈新連載〉女性雑誌を読む

尾形明子

20

『女性改造』

1

〈連載〉風が吹く3「とびきりの風雪」

榎原剛作氏

〈山崎陽子22「生きる言葉」〉

榎本と北重（粕谷一希）

23「ル・モンド」紙から世界を眺む62「書かれたもの」

の力（加藤晴久）

24

〈海知恵〉25「5月刊案内」読者の声・書評日誌

／刊行案内・書店様へ告知出版願望

25